

学校だより

第12号
令和7年度

いつも心にあいうえお

令和 7年 5月21日（水）

発行：那覇尚学院高等専修学校

文責：校長 初鹿野 修

『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』

ロバート・フルガム 著

以前に幼稚園の園長をしていた時に読んだ本です。1990年に発行され、たちまち幼稚園教育のバイブル「黄金ことば」となった本です。下記に紹介します。

人間、どう生きるか。どのようにふるまい、どんな気持ちで日々おくれればよいか、本当に知っていなくてはならないことを、私は全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のてっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場に埋まっていたのである。私はそこで何を学んだであろうか。

- 何でもみんなで分け合うこと
- ずるをしないこと
- 人をぶたないこと
- 使ったものはかならずもとのところに戻すこと
- ちらかしたら自分で後片付けすること
- 人のものに手をださないこと
- 誰かを傷つけたら、ごめんなさい、ということ
- 食事の前には手を洗うこと
- トイレに行ったらちゃんと水を流すこと
- 焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいいこと
- つりあいのとれた生活をする・・・毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵をかき、歌い、踊り、遊びそして、少し働くこと
- 毎日、必ず昼寝をすること
- 表に出るときは車に気を付け、手をつないで、離れ離れにならないようにすること
- 不思議だと思う気持ちを大切にすること
- ディックとジェーンを主人公とした子どもの本で最初に覚えた言葉を思い出そう。何よりも大切な意味をもつことば。「見てごらん」

・・・・・・ 略 ・・・・・

このなかから、どれなりと項目の一つ取り出して、知識の進んだ大人向けの言葉に置き換えてみるといい。そして、**それを家庭生活やそれぞれの仕事**、国の行政、さらには世間一般に**あてはめてみれば**、きっとそのまま通用する。明快でゆるぎない。私たちみんなが、そう、世界中の人々が三時のおやつにクッキーを食べてミルクを飲み、ふかふかと毛布にくるまって昼寝ができれば、世の中どんなに暮らしやすいことだろう。あるいは、また各国の政府が使ったものは必ずもとのところに戻し、ちらかしたら自分で後片付けをすることを基本政策に揚げて、これをきちんと実行したら世界はどんなに良くなるだろう。それに、人間はいくつになっても、やはり、おもてにでたら手をつなぎ合って、離れ離れにならないようにするのが一番。

さて、上記のロバート博士の「生活信条」で特に気に入ったのは、また気になったのは何でしょうか？

みんなが違って、みんないいと思います。それぞれの判断基準が違うから。

私は、「何よりも大切な意味を持つ『見てごらん』に心を惹かれました。その理由は、太字の部分の「あてはめる」にあります。教師という職業にあてはめて考えたからです。教師が生徒たちに「見てごらん」と言えることは、次の3つの条件があるのではと考えました。

見てごらん

- 位置・・・・・・生徒のそば、生徒に寄り添っていないと言えません
- 目の高さ・・・・生徒と同じ目線で見たり、考えたりしないとできません
- 方向・・・・・・生徒と同じ方向を見ていないと言えません

「見てごらん」の5文字に、共感的理解・師弟同行という教育の原点を感じました。

学校開校2年目がスタート

1年 1名 2年 1名 計2名
職員 常勤 3名 授業担当 2名

小さな小さな学校です。しかし、2年目をしっかり歩みだしました。入学式で在校生の言葉にあったように、歴史と伝統を今、自分たちで創っています。ゆっくりですが、確実に「一人も独りにしない」教育を進めます。